



衆議院議員

村上誠一郎

294

私の履歴書

目で見る



▲大学卒業後、河本敏夫自民党政調会長の秘書として研鑽を積む。



▲新宿御苑にて家族と共に。



▲後援会を結成し、皆様と共に萩に旅行。



▲衆議院議員選挙立候補の挨拶に田中角栄元首相を訪問。

▼郷里の宮庭町長、矢野春夫氏の当選祝いに駆けつける。



▼新居浜市の農業後継者の皆様と共に。





昭和61年、念願の初当選



初登院の日首相官邸を訪問



昭和63年、国会見学に訪れた選挙区の皆様方と

一昨年暮れの大蔵委員会、審議に反対する野党委員にもみくちゃにされながら、文字どおり体を張って、大任を全うする村上誠一郎大蔵委員長の勇姿は今も記憶に新しい。

翌平成十年五月十五日、衆院本会議は日本版ビッグバン関連の金融システム改革法案を可決し、村上委員長の下の大蔵委に付託された法案計六十本をすべて処理した。

空前絶後の法案数であり、中には、戦後の大蔵委にとつて最大の法案といわれる金融安定二法案も含まれている。いかに困難な審議過程を経たかは想像に難くないが、その立役者は史上最年少の大蔵委員長である。かくて、「自民党に村上あり」の評価は一段と高まった。

村上衆院議員は昭和二十七年五月十一日、信二郎・美智子の長男として出生している。先祖をたどれば、瀬戸内の要衝を押さえた村上水軍のルーツ、愛媛県の能島村上家の末裔、一八代目に当たる。

曾祖父の紋四郎は衆院議員、今治市長、愛媛県議会議長、宮窪村長を歴任、祖父の常太郎は最高検察庁次長検事、弁護士、父もまた防衛庁審議官、衆院議

平成4年、国会対策副委員長として難局打開の為に、与野党国対委員長会談にのぞむ。
（写真中央より村山社会党・現山自民党国対委員長）



▼平成4年、2国生議員の中では初めて予算委員会理事に就任。
委員長の代理を勤める。





▲平成4年、宮沢内閣の大蔵政務次官に就任。省内の会議に出席。

▼大蔵政務次官室を訪れた選挙区の
皆穂方と。



▼大蔵政務次官として通信委員会で審弁する。



員を務めた名家、政治家の血筋である。

東京教育大学付属（現筑波大学付属）小・中・高校を経て東京大学法学部を卒業し、河本敏夫通産相・自民党政務調査会長、経済企画庁長官各秘書として現実の「政治学」を学ぶ。

師匠格の三木派の領袖、三木武夫元総理からは「自分の信念と哲学を継承せよ」と教えられ、後に派を継承した河本元通産相には「政策が命だ」と叩き込まれたという。

ここで本来なら、父の地盤を受け継いで「二世」のお決まりのコースだが、村上議員は違う。大学生の時、父は亡くなっていたからである。伯父の孝太郎参院議員もまた鬼籍に入っていた。

初出馬した五十八年十二月の衆院選は、「中央政界で活躍することが父と伯父の遺志に沿うもの」と誓ったが及ばず次点の惜敗である。

村上家の家訓に習えば、「国家の大事には親兄弟の屍を乗り越えて戦え」だ。陣営のタガを締め直し離任二年命、六十一年七月、堂城二区に前途洋々の若手政治家が誕生したのだ。

直ちに外務委、大蔵委、公選

▶平成3年、自民党遊説局長に就任。国政・地方選挙で熱井を擁する。



自民党県連第36回定期大会



▲平成5年、自民党史上最年少の県連会長に就任。党勢の拡大、次期衆議院選挙の候補者調整に尽力する。

▼平成5年、自民党財政部会長に就任。河野総裁に予算編成日程を説明する。



▲平成7年、衆議院石炭対策特別委員長に就任。空知炭鉱の閉山問題を審議する。



▲衆議院本会議場で大蔵委員会の法案報告を行う。



▲平成9年、衆議院大蔵常任委員長に就任。金融システム安定の為参考人を召致し審議を行う。

▶経団連で農田会長他役員の
皆様方と意見交換を行う。



特別委各委員、党の国際局・青年局長を務める。平成二年二月に再選。この二回目当選から村上議員は満を持していたかのように大きく羽ばたく。

翌三年十月、二回生で初めて予算委員会理事に就任する。ともに、党の国会対策委員長に就く。さらに四年十二月には宮沢内閣の大蔵政務次官に就任、「財政通」を实践した。地元においても党愛媛県連会長として重きをなしている。

五年七月三回目当選。党財政部会長、大蔵委筆頭理事。その後、石炭対策特別委員長、党の組織広報本部遊説局長を歴任し七年八月、党副幹事長就任。ちなみにこの副幹事長ポストは十年九月で四期目を数える。

八年十月、初めて実施された新選挙制度の下で愛媛二区で四期連続当選を飾る。翌年九月就任した大蔵常任委員長の活躍ぶりは前述のとおりである。

現在、村上議員は国土審議会特別委員、大蔵・環境各委員をはじめ、党の税制調査会、副幹事長して党改革、政治改革本部など幅広い分野で要職に就いている。未だ四十代半ばの若さ、水軍ならぬ「日本丸」の舵取りに貴重な役割を果たすに違いない逸材である。



▲副幹事長として党役員連絡会に出席。



▲平成7年、自民党副幹事長に就任。党の広報活動について橋本総裁と打ち合わせ。



▲平成11年、加戸知事当選に沸く選挙事務所にて。



▲平成10年、愛媛県政に新風を吹き込むべく加戸新知事誕生に向けて熱弁を振るう。



▲国際舞台で活躍する村上誠一郎。
▶左はヒルズ米国通商代表との会談。
右は興学謙中国副総理との会談。

